

# 育成モノづくり人材

Vol. 81

## 岐阜県立高山工業高校

岐阜県立高山工業高校は岐阜県の飛騨地区で唯一の工業高校。卒業生の8割が就職し、県外大手企業にも多く



藤田校長

の人材を輩出するが、就職する卒業生の半数は飛騨地区が進路となる。同校には企業約80社が加入する後援会があり「地元と太いパイプがある」(藤田正昭)

【DATA】▷校長=藤田正昭氏▷所在地=岐阜県高山市▷学科構成=機械科、電気科、建築インテリア科、電子機械科▷生徒数=429人▷主要設備=旋盤、フライス盤、マシニングセンター、CAD/CAM▷主な進路=アイシン精機、デンソー、豊田自動織機、飛騨産業、和井田製作所、金沢工業大学、名城大学など

に出店し、電子部品を樹脂で固めたキーホルダーや和らぎを再現した発光ダイオード(LED)あんどんなど、各学科

## 学ぶ店舗「飛騨の匠工房」

校長。

歴史と文化が息づく高山市内の学び舎で「飛騨の匠の技と心を継承」を合言葉に、4学科の生徒が技能検定合格や資格取得を目指し切磋琢磨する。学びの成果は卒業生の活躍の場として、地元や観光客が訪れる陣屋前朝市などに



製作した商品を販売するサテライトキャンパス「飛騨の匠工房」

加。さらに今回から建築会社での実習受け入れも始まった。

建築インテリア科では来春の入学選抜から県外募集枠を設ける。時代のニーズを掴みながら学校の活性化を推進することで、地域での存在感がさらに高まると期待され、藤田校長は「今後も地域に根ざし、将来を担うエンジニアリーターの育成を目指したい」と力強く語る。

(岐阜支局長・伊藤吉登) (金曜日に掲載)

「商品開発に関連し、知的財産権を学ぶ。外国人の依頼を受け、地元で開かれる高山祭の祭り屋台のちようちんのLED化を進めるなど、習得技術を生かした地域貢献にも取り組んでいる。

ア科では家具メーカーの支援を受け、3年生が木製スツールの企画製作までを6日間取り組む。地場産業に990年から続いており、17年度は7人が参加した建築インテリア